

教材・支援機器活用実践事例

【わり算の筆算（わる数が一桁）が苦手な児童への学習支援】

	実施年度	平成29年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	わり算の筆算(わる数が一桁)
	授業における教師のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆算の仕組みが分かり、意味を理解して計算できるようにする。 ○ 弱いワーキングメモリー（作業記憶）を補い、筆算を正しくできるようにする。
	授業における子どもの目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手順や記入場所が分かり、正しく筆算することができる。 ○ 意味に照らして、商をたてる場所を決めることができる。
子どもについて	学級・学校・学年	通級による指導 小学校 4学年7名
	対象の障がい	学習障がいや自閉症スペクトラム障がい
	授業形態	個別学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聴覚的または視覚的ワーキングメモリー（作業記憶）が弱い。 ○ 空間認知の得意不得意はあるが、押しなべて視覚的長期記憶は良好。 ○ 具体的で操作的な活動を好む。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自作ワークシート ○ 模擬お金（「LEEの教材館」からダウンロード）
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ わり算は、九九唱を保持し商を見つける点や手順の多さで、ワーキングメモリー（作業記憶）容量の少ない児童に間違いが起きやすい。色と手順を連動し手がかりを示すことで、弱みを補いつつ強みを使うことになる。 ○ 視覚的記憶に頼り、意味が分からなくても計算できるのも筆算である。そのため定着後、時間の経過とともに不正確になる。模擬お金の操作的活動を取り入れた意味指導で、理解が確実になるようにする。
授業における支援・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ○ 在籍校の授業後、理解・定着を確認し、必要に応じてワークシート①～③を使用する。 ○ 模擬お金を使った筆算の各段階の数字の意味指導は、全員に実施する。 ○ 九九唱を何度しても答えが見つけられない(九九唱の保持が難しい)児童には、わる数の九九の答えを脇にメモさせ、わられる数がどこに位置するか考えることで、答えを見つけるようにした。 ○ 手順リストの色と筆算用紙のマスの色が連動しているので、記入場所が視覚的に分かった後は、ワークシートを脇に置いて、ノートでも筆算ができるように練習した。 ○ 在籍校には、ラミネートしたワークシートを配付し、授業でも使用できるようにした。また希望する児童には、家庭学習用も配付した。
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ○ 6月中に、7名全員、わり算の筆算が正しくできるようになった。 ○ 2学期の2桁でわる筆算でも、同じ形式のワークシートを使用し、理解を確実にできるようにしていく。